

# 私の一冊

看護学科 深江久代 先生

村上春樹著 『1Q84(ichi-kew-hachi-yon) : a novel』

小鹿図書館 : 913.6/Mu 43 (新潮社)

あなたの趣味は読書？

「あなたの趣味は何ですか？」と聞かれたら、入学試験や就職試験があった 20 代の頃は、「特になにもありません。」とは言えないので、本が特に好きでもありませんでしたが「読書です。」と言っていました。恥ずかしいことに、仕事と家庭一筋の今も、これといって何もやっていないので、やはり「読書です。」というしかないと思っています。でも、20 代の頃と違って本は好きです。ただし専門書以外の時代劇や推理小説、恋愛小説などですが…。

本は面白い！

私が本は面白いなと思って読み始めた時期は、大分遅く、国立公衆衛生院に 1 年間学ぶために、保育園に通う子ども 2 人を家族にお願いした時期です。月曜日の朝に東京に向かい、金曜日の夜に自宅に帰る。その行き帰りと子育てをしないでよい火曜から木曜日の夜に、せっせと読みました。そして本があまりにもおもしろく、映画化されたものは、映画やビデオで見ってみました。しかし、映画はあまりおもしろくなく、感動もしないのです。なぜなのか考えてみたところ、活字で読むものは、自分で自由に空想し、想像し、自分の頭の中で映像化しているからなのではないかと思っています。私はさめたところがあって、映画化されたものを見ても、物語に入り込めず、どうやってとっているんだろう、あれは CG なんだよな、などと思いながら見てしまうのです。

なぜ読書は大事か？

なぜ読書は大事なのでしょう？知識が身につくからでしょうか？それは私にはあてはまらないように思います。自分の実感として、当たり前のことかもしれませんが、文章力がつくからだと思います。小さいころから本を読むのが好きだった娘は、作文や読書感想文に困ることはありませんでした。また、自分に文章力があるかどうかはわかりませんが、自然に人に伝える文章が書けるようになったのは、あの時からせっせと読んできた小説のおかげかなと勝手に思っています。

## 村上春樹の「1Q84」

この本を紹介してくれたのも娘です。自分が脊柱管狭窄症で手術のために、入院をすることになった時、真っ先に「この本お勧めだから」と貸してくれました。本当におもしろく、手術の痛さやつらさよりも、続きが読みたい気持ちが強く、一気に読んでしまいました。スリルあり、恋愛あり、アクションあり、ファンタジーあり、空想力をものすごく掻き立てるすごい本です。私がここで言いたいのは、読書が嫌いな人、自分に文章力がなくてどうしたらつくんだろうと悩んでいる人に、なんでもいいんです。おもしろいと思う本に出会ってください。「1Q84」はそのお勧めの一冊です。「へえ～。本ておもしろいんだ！」と実感したらしめたものです。そしておもしろいと思う本をたくさん読んでください。知らないうちに文章力がついていると思いますよ。